

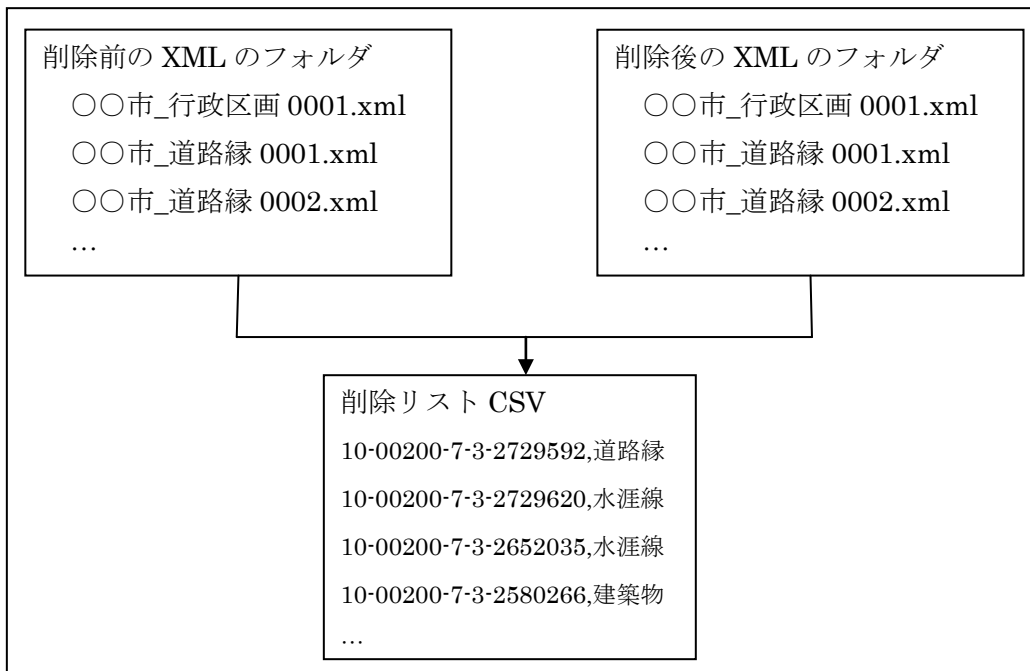
基盤地図情報作成検査ツール バージョン 1.45 更新記録

2010/03/24
有限会社ジオ・コーチ・システムズ
<http://www.geocoach.co.jp/>
info@geocoach.co.jp

1. 削除リスト作成

メニュー[基盤地図情報]-[削除リスト作成]で隣接する作業地区別のリストも出力できるようにしました。以下、説明書からの抜粋です。

隣接する市町村との接合編集で削除された地物のリストを作成します。



削除前の XML ファイルのフォルダ(入力)

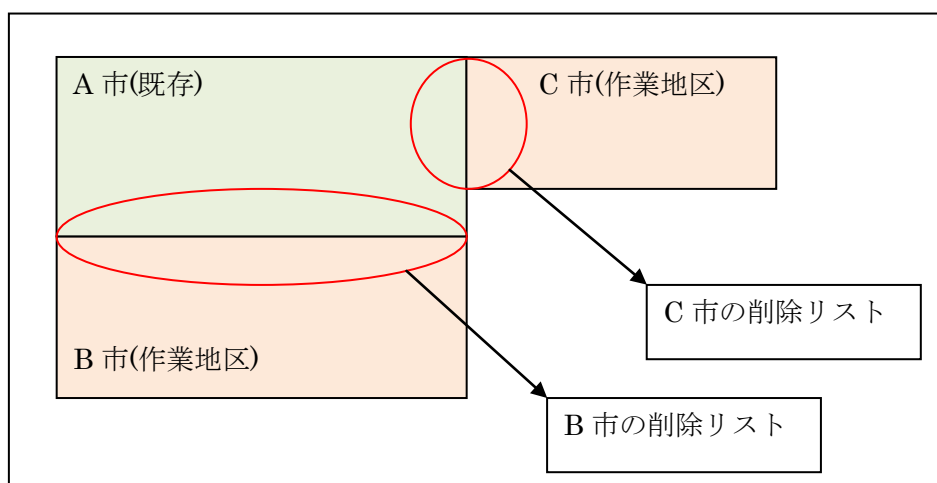
接合処理する前の XML ファイルのフォルダを指定します。

削除後の XML ファイルのフォルダ(入力)

接合処理が済んだ後の XML ファイルのフォルダを指定します。

作業地区別

接合処理を行った地区が複数の作業地区に隣接している場合、それぞれの作業地区別の作業リストも作成するためのオプションです。



平面直角座標系

XML データの平面直角座標系を指定します。地物とポリゴンの重なりは平面直角座標系でチェックします。

作業地区ポリゴンのシェープファイル

作業地区別に削除されたデータを囲むポリゴンのシェープファイルを指定します。作業地区はこのポリゴンで判定します。作業地区のポリゴンが重なってはいけません。上図の赤い楕円です。

シェープファイルのフィールド名

作業地区ポリゴンについて、市町村名などが記録されているフィールド名を指定します。例えばフィールド名が「名称」で、その値が「A市」「B市」となります。全体のリストと同じフォルダに、このフィールド名の内容+.csvのファイル名で作業地区別の削除リストを作成します（例：[A市.csv][B市.csv]。指定されたフィールド名がシェープファイルにない場合、フィールドの値に空白がある場合、処理を停止します。飛び地に対応し、複数のレコードが同じフィールド値を指定できます。削除された地物が複数のポリゴンと重なる場合、あるいはひとつも重ならない場合は、ポリゴン別のCSVには出力しないでチェックリストに表示します。

表示項目と項目数 <input checked="" type="radio"/> すべて 3 <input type="radio"/> OK以外 3 <input type="radio"/> OKのみ 0	OK	(1)複数の作業地区にまたがっています 10-00200-7-123-10,行政区画界線 (2)作業地区のポリゴンが特定できません 10-00200-7-123-13,行政区画界線 (3)複数の作業地区にまたがっています 10-00200-7-123-16,行政区画界線
OKリストCSV保存	全削除	
ガイド レポート チェックリスト1 チェックリスト2 確認リスト		

シェープファイルの座標は平面直角座標系

作業地区ポリゴンのシェープファイルの座標が平面直角座標系の場合 ON、緯度経度の場合 OFF にします。

削除リスト CSV(出力)

作成する削除リストの CSV ファイル名を指定します。削除された地物のすべての ID と地物名を出力します。

削除前の XML の「地物 ID」が、削除後の XML になければリストアップします。地物別に地物 ID を調べます。つまり、削除前の「〇〇市_道路縁 0001.xml」「〇〇市_道路縁 0002.xml」などに対して、削除後の「〇〇市_道路縁 0001.xml」「〇〇市_道路縁 0002.xml」を調べます。編集前には「〇〇市_道路縁 0002.xml」にあった地物が、編集後は〇〇市_道路縁 0001.xml」に移動していても、地物 ID が変わっていなければ、削除されたことにはなりません。

削除前フォルダと削除後フォルダに、地物名が対応する XML ファイルがない場合、その地物についてはチェックしません。

作成する削除リスト CSV は 1 行目からデータで、ヘッダ行はありません。

列	型	内容
1	文字列	削除された XML の要素「地物 ID」の値から先頭の「fgoid:」を除いた文字列 例「fgoid: 10-00200-7-3-2729592」⇒「10-00200-7-3-2729592」
2	文字列	削除された地物名。「道路縁」「水涯線」「建築物」など

削除された地物の総数をレポートします。削除された地物がなければ CSV ファイルは作成しません。

削除された地物の数=5 D:\work\2009\200907基盤地図情報作成\20100129削除リスト作成\削除リスト.csvを保存しました				
ガイド	レポート	チェックリスト1	チェックリスト2	確認リスト